

事業実績報告書

様式 2
(2019年度)

※この報告書は、なごや環境大学のウェブサイト上に記録として掲載されます。

講座番号	B-54	講座名	木曽川がもたらす生物多様性の恵みに感謝し、水源の森で学び、働く
記載日	2020/3/10	団体名・企業名	NPO法人「みたけ・500万人の木曽川水トラスト」

〈講座全体の概要〉(300字程度)

台風19号襲来で10月を中止し、順延で2月まで実施した。主として木曽川下流域市民に、座学や間伐・枝打ち・除伐・出荷などの森林整備活動、および、炭焼きなどの山仕事体験を通して、水源地域が置かれた困難な状況を頭と体で体感してもらい、下流から上流を見る「まなざし」を獲得してもらい、さらには上流域支援ボランティア活動者となるための契機としてもらうという狙いで実施。昨年・一昨年と同様に家族連れ参加が多く、子どもたちへの環境教育としての里山林探検、灌木や竹林の除伐のこぎり体験、薪割り体験、たき火のおこし方、サンマ焼きなどが好評だった。また餅つきは大人にも大好評だった。参加者総数67名は、昨年度の66名と同等だった。



※写真1の説明

12月の作業小屋前で集合写真。この日は焼いた炭でサンマを焼いて食べた。

※写真2の説明

1月の集合写真。古民家で餅つきの後、一品持ち寄りの昼食会となった。

〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)

トラストの森はわずかに3haにすぎないが、自由に活動できる10ha以上のヒノキ人工林が隣接していて、間伐・枝打ち作業、炭焼きなどを行ってきた。毎月2日ずつ、すでに25年間も活動してきた。森を通じて名古屋市民の命の水である木曽川上流域のことを知ってもらうために、環境大学講座の場をお借りしてきた。この講座は土曜日に設定しているが、日曜日のトラストの活動は御高町有林での本格的な間伐作業と、パルプ材としての出荷である。複数の受講者がこの活動に参加するようになったのは大きな成果。昨年に続き子どもの参加が多く、大人を元気にさせてくれた。彼等も実に生き生きと楽しそうであった。トラストの森を周回する散策道は40度超の急斜面をよじ登るが、子どもが生き生きと楽しんでた。

〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3~5点、計350字程度)

- ・子供が生き生きしていたのが良かったという親御さんからの感想が目立った。
- ・我々水トラストのメンバーについても子どもの参加者が増えると元気になる様子が見られた。
- ・除伐した竹で箸とトレイを製作してもらったが、この事が楽しかったという感想が多かった。
- ・水トラストメンバーに器用な人がいて、彼の作品を大事に持ち帰った受講者が何人かいた。
- ・子供たちの感想で最も多かったのは、単に「楽しかった」であったが、薪割りの楽しさを述べたものも多かった。大人でも、薪割りがしたくて来たという方が数人いた。
- ・座学が勉強になったという大人の感想も多かった。